

IT Automation BASE【座学】

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」として記載します。

Exastro IT Automation Version 1.10 Exastro developer 1. はじめに 1.1 <u>本書について</u>

目次

2. 管理コンソールの説明

2.1 <u>システム設定</u>

2.2 <u>RBAC(ロールベースアクセス制御)</u>

3. 基本コンソールの説明

- 3.1 <u>ITAにおける機器の管理</u>
- 3.2 オペレーションの概要
- 3.3 <u>ER図の表示</u>



1. はじめに



1.1 本書について

メインメニュー

●本書では、メニューグループの「管理コンソール」「基本コンソール」についてご説明します。



2. 管理コンソールの説明



2.1 システム設定

「システム設定」メニューは、システム導入・運用時に設定すべき 各種情報の登録を行います。設定項目は、以下のとおりです。(次項に続く)

項目名	説明
IPアドレス規制	IPアドレスを利用したアクセス規制の有効/無効を選択可能
アップロード禁止拡張子	ファイルアップロードを禁止する拡張子
アカウントロック継続期間	アカウントロック起点日時からロック状態を継続する期間
パスワード誤り閾値	アカウントをロックするためのパスワード失敗閾値
パスワード誤りカウント上限	パスワードの連続誤りをカウントする上限回数
パスワード再登録防止期間	同一パスワードの再登録を防止する期間
パスワード有効期間	パスワードの有効期間

■「システム設定」メニューは、システム導入・運用時に設定すべき 各種情報の登録を行います。設定項目は、以下のとおりです。

項目名	説明
認証継続期間:未操作	未操作時に認証(セッション)を継続する期間
認証継続期間:最長	認証(セッション)を継続する最長期間
画面デザイン選択	画面のデザイン設定
Symphony / Conductor インターバル時間	定期作業実行に登録されたSymphony・Conductorが 未実行(予約)ステータスに遷移するまでのインターバル時間
「ロール」ボタンの表示切替	ログインしているユーザがどのロールに所属しているかを 表示する「ロール」 ボタンの有効/無効を選択

RBACとは

RBACは役割ごとに権限を与える方法です。

ユーザ個人に対して直接許可が与えられるのではなく、 ロールを通して与えられるため、 アクセス権の管理は、ロールへのアクセス権の割り当てという形になります。

● メニュー毎ごとのRBAC

ユーザ毎にアクセスを許可するロールを付与することで、ユーザごとにメニューへのアク セスを制御することができます。また紐付の際には「メンテナンス可」「閲覧のみ」が選択 でき、「メンテナンス可」を選択するとデータや履歴の確認、複製、更新、廃止を行えま す。「閲覧のみ」を選択するとデータと履歴の確認のみ行うことができます。

●データレコード毎のRBAC

ユーザ毎にアクセスを許可するロールを付与し、データレコード毎にロールを付与することで、データレコード毎のアクセスを制御できます。

上記機能を利用しない場合、デフォルトアクセス権およびアクセス許可ロールを空白にすることで、どのユーザからでも閲覧が可能になります。

操作手順等の詳細につきましては、<u>利用手順マニュアル</u>をご参照下さい。

2.2 RBAC(ロールベースアクセス制御) (2/4)

「管理コンソール」メニューグループ内のメニュー説明

メニューグループ管理

・メニューを複数束ねるものです

メニュー管理

・メニューは必ず一つのメニューグループに所属します

ロール管理

・メニューへのアクセス権限を役割定義するものです

ユーザ管理

- •ユーザは複数のロールを持つことが可能です
- ActiveDirectoryと連携し、ユーザ情報を取得することが可能です

● ロール・メニュー紐付管理

ロールごとにメニューへのアクセス権限をメンテナンスできます

● ロール・ユーザ紐付管理

ユーザごとに所属するユーザをメンテナンスできます



2.2 RBAC(ロールベースアクセス制御) (3/4)



- メニューA・・・ ユーザ1のみがメンテナンス可
 メニューB・・・ ユーザ全てがメンテナンス可
 メニューC・・・ ユーザ1がメンテナンス可、ユーザ2・3が閲覧のみ可
- ※ ユーザ1は、メニューCに対して『メンテナンス可』と『閲覧のみ』両方の 権限がありますが、『メンテナンス可』の権限が優先されます

2.2 RBAC(ロールベースアクセス制御) (4/4)

■データレコード毎のRBACの例





■ レコードA・・・

developers, operators1へアクセス権を付与

■ レコードB・・・

developersのみアクセス権を付与

■ レコードC・・・

アクセス許可ロールを空白(全ユーザがアクセス可能)

※各ロールがメニューAとの紐づけを設定していることが前提です。 (前項のメニュー毎のRBAC設定を参照)

3. 基本コンソールの説明



ITAにおける機器の管理

「基本コンソール」メニューグループ >> 「機器一覧」メニューでは、 作業対象ホストの必要情報を登録します。 ホストごとに認証情報が設定可能です。 認証方式については「パスワード認証」と「鍵認証」の2種類から選択ができます。



登録



△閉じる

ITAにおける機器の管理

ITAでは、機器情報を別管理させることにより、機器情報の再利用性を高めることができ 設定情報変更などにも柔軟に対応することが可能です。

これらの機器の管理の活用方法につきましてはクイックスタートを参照ください。

※「Movement(ムーブメント※ITAの独自用語)」とは作業の単位を意味します。



3.2 オペレーションの概要

オペレーションとは

ITAでの作業実行単位のことです。 作業予定、実行履歴などを管理することが可能です。

オペレーションの活用方法につきましてはクイックスタートを参照ください。



3.3 ER図の表示

ER図とは

「基本コンソール」メニューグループ >> 「ER図表示」でER図を表示します。

ER図では選択したメニューグループの各メニューと参照データの紐づけ(リレーション)を表示し、プリント出力ができます。

表示内容はログインユーザが閲覧可能権限を持つメニューのみ表示されます。 操作手順等の詳細につきましては、<u>利用手順マニュアル</u>をご参照下さい。



